

○単元の目標

知識及び技能	バドミントンについて、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、競技会の仕方などを理解するとともに、状況に応じたラケット操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。
思考力・判断力・表現力等	課題解決の過程を踏まえて、チームの新たな課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力・人間性等	バドミントンの学習に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にすること、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、健康安全を確保できるようにする。

評価規準
<p>【知識・技能】</p> <p>①シャトルを相手コート の守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。</p> <p>②ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして守備のバランスを維持する動きができる。</p> <p>③ 競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や全員が楽しむためのルール等の調整の仕方を理解している。</p>
<p>【思考・判断・表現】</p> <p>①体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。</p> <p>②チームでの話し合いの場面で合意形成するための調整の仕方を見付けている。</p>
<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>①一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。</p> <p>②作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。</p> <p>③危険の予測をしながら回避行動をとるなど健康・安全を確保している。</p>

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ねらい	自分の動きの課題を見付けることができる。	バドミントンの基礎的な動きを身につける。			自己やペアの特徴に応じた作戦を考える。			自分に合った関わり方を見つける。		
導入	単元を通して、心と体をほぐす準備運動を行う。									
展開	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の学習の見通しをもつことができるように単元計画を説明する。</li> <li>ダブルスの一般的なルールを確認する。</li> <li>安全を確保するために用具の取り扱い方、コート設置時に注意すべき点を確認する。</li> </ul> <p>試しのゲーム</p>	<p>ペアでの基本ストロークの練習</p> <p>ダブルスで条件付きのミニゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>条件の確認（利き腕の使用・得点差をつけた状態から開始など）</li> <li>技能の習熟度が同程度の相手と対戦できるように、各試合の勝敗に応じてコートを移動</li> </ul> <p>共：①生徒による自由なペアリング ②抽選による活動開始時のコート決め ③対戦相手との試合条件やルールの調整（利き腕の使用制限など）</p>	<p>団体でのリーグ戦① チーム内での練習</p> <p>共：①全員が楽しめるためのチーム構成 ②ミックスダブルス（男女混合）を含めたメンバー表の作成 ③チーム内で練習や作戦を立てる場の設定</p>	<p>団体でのリーグ戦② チーム内での練習</p> <p>共：①リーグ戦運営のための役割分担 ②チームや仲間の課題を解決するためのICTの活用 ③チーム内で練習や作戦を立てる場の設定</p>						
終末	・観点別の評価規準と評価方法を説明する。	本時の振り返り、および次時の内容の説明。			チームでの本時の振り返りと、課題に応じた練習計画の立案			チームでの本時の振り返り		

評価場面	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
知識・技能		①（指導）		①（評価）	②（指導）		②（評価）	③（指導・評価）		総括的評価
思考・判断・表現			①（指導・評価）				②（指導・評価）			
主体的に学習に取り組む態度	③（指導）		①（指導）		③（評価）	①（評価）	②（指導）		②（評価）	

実践事例

生徒同士が協力し課題解決に取り組むための工夫

高等学校第3学年 E 球技 イ ネット型「バドミントン」

福岡県立新宮高等学校

1 単元の目標

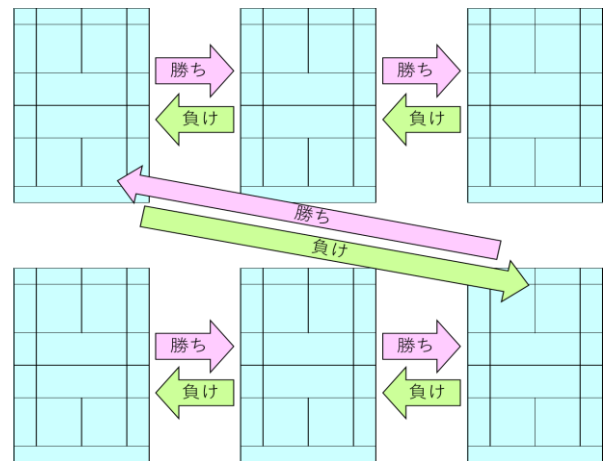
- バドミントンについて、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、競技会の仕方などを理解するとともに、状況に応じたラケット操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。【知識及び技能】
- 課題解決の過程を踏まえて、チームの新たな課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力・判断力・表現力等】
- バドミントンの学習に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にすること、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、健康安全を確保できるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

2 共生を基盤とした授業づくりにおける仕掛け

(1) ゲームをととしてペアとの課題解決に向けて繰り返し挑戦できる場の工夫

接戦を続けることができる対戦方式

単元前半の動きを高める段階で、ゲームを繰り返す中で技能が同程度の相手との対戦が増えるように、各試合の勝敗に応じてコートを移動させた【図1】。生徒たちは、5点マッチのゲームを繰り返しながら、ゲーム間にペアとの連携の課題解決を図ったり、それぞれの特徴を生かした新たな作戦へ挑戦したりしようとして話し合う姿が見られた。初めのうちは、男子ペアと女子ペアの対戦でどちらも遠慮する様子が見られたが、すぐに接戦となり、互いに全力でプレイするようになった。また、一度対戦した相手との再戦では相手の特徴に応じた作戦を考えながら勝敗を競い合う姿が見られた。



【図1 勝敗に応じたコートの移動】

(2) 技能や体格、体力の異なる生徒同士が協力しながらゲームを楽しむための工夫

男女混合ダブルスを組み入れたメンバー表の作成

団体でのリーグ戦にむけた班分けの際に、教師から「男女混合ダブルスを組む」「全員が楽しめる」を条件として示し、メンバー表の番号順に試合することとした。

生徒は自分たちで運動経験などを考慮し男女比が同じような班編成を行った。リーグ戦開始時は、男子対女子のシングルスにおけるゲームにおいて遠慮する姿や、初めて組む男女ペアで連携した動きがうまくいかない場面が多く見られた。ゲームに出ていないチームメイトは、積極的に応援はしていたものの、具体的にアドバイスする様子はあまり見られなかった。

1班		
組	番	
9	37	男
10	35	男
10	29	女
9	6	女
9	27	女
9	22	女
9	4	女
9	20	女
9	25	女

試合No.	
1	シングルス
2	シングルス
3	シングルス
1	ダブルス
2	ダブルス
3	ダブルス

【図2 各試合で提出するメンバー表】

2戦目以降、各チームで試合前後の話し合いの場面で、積極的に作戦や連携した動きについて徐々に意見を出し合う姿が見られるようになった。また、その日のゲームで組むペアで積極的に練習する姿が見られるようになった。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

##### ○ アンケート結果から

項目「1. 体育のゲームで、よく得点できます。」をみると、「はい」「どちらかといえばはい」の回答が実践前に比べて14.89%（7人）増加した。これは、ゲームをとおしてペアとの課題解決に向けて繰り返し挑戦できる場の工夫として、単元前半のゲームを、接戦を続けることができる対戦方式にしたことにより、同程度の技能の相手と繰り返しゲームができ、個人の技能やペアとの連携した動きの改善状況が確認しやすくなり、相手コートに空いた空間を作り出し得点するための新たな技能習得につながったと考える。

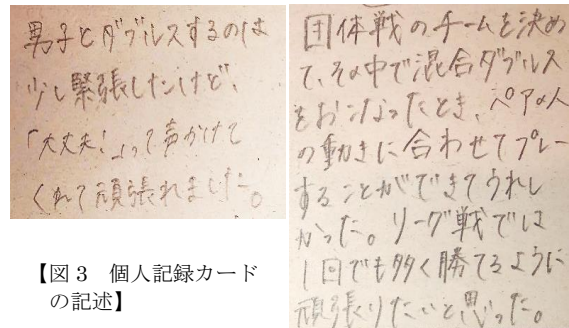
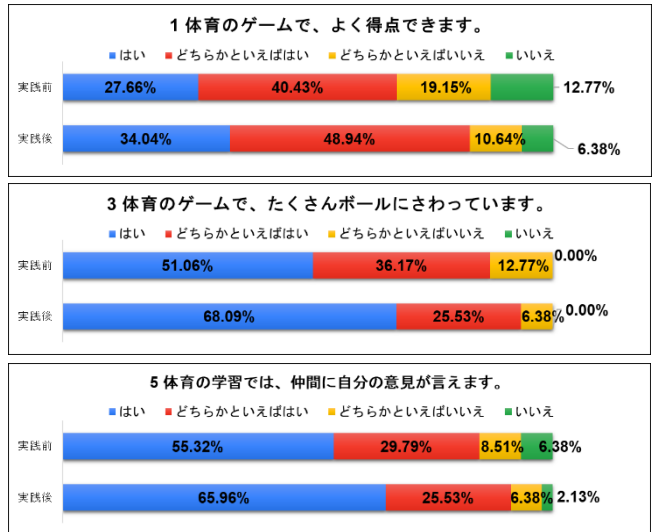
項目「3. 体育のゲームで、たくさんボールにさわっています。」では「はい」「どちらかといえばはい」の回答が実践前に比べて6.38%（3人）増加した。これは、ゲーム展開としてラリーが続く接戦が増えたことにより、1試合の中でシャトルを打つ回数が増えたと考えられる。

項目「5 体育の学習では、仲間に自分の意見が言えます。」では「はい」「どちらかといえばはい」の回答が実践前に比べて6.38%（3人）増加した。これは、技能や体格、体力の異なる生徒同士が協力しながらゲームを楽しむための仕掛けとして、男女混合ダブルスを組ませたことで、ペアだけでなく、ゲームに参加していないチームメイトが積極的にアドバイス意見を出すようになったと考えられる。

また、各時間の学習後に実施した「形成的授業評価アンケート：9 友だちとおたがいに教え合ったり、助け合ったりしましたか。」においては、全体的に高い評価で推移しており、特に、行い方を考える段階として団体でのリーグ戦①を実施した5回目以降徐々に数値が上がっていた。

##### ○ 生徒の振り返りから

各時間の学習後に実施した個人記録カードには、「混合ダブルスをおこなったとき、ペアの人の動きに合わせてプレイすることができてうれしかった」「男子とダブルスするのは少し緊張したけど、『大丈夫』って声かけてくれて頑張れました」などの記述がみられた。実践前には、男女混合ダブルスはしらけた雰囲気になるのではないかと不安だったが、リーグ戦の2試合目以降は試合前後に互いにアドバイスしながら練習する様子や、試合中はプレイしているペアを仲間と一緒に応援する姿がどのコートでもみられ、毎時間がクラスマッチのような盛り上がりだった。



【図3 個人記録カードの記述】

#### (2) 課題

○ 2時間目までの男子ペア対女子ペアでのゲームでは、あらかじめ女子ペアが3点リードの状況から始めたり、男子ペアは利き腕を使わないなどの条件を加えたりした。3時間目以降は、試合ごとに対戦相手とどのような条件を付けるのかを決めさせたが、結果として条件なしでのゲームが行われたのみで、自分たちでルールや条件を工夫する姿はみられなかった。一般的に競技として行われるルールに変更を加えることに慣れていない様子がみられたため、今後、生徒同士でルールや条件の工夫ができるようになるためには、1年次からの様々な単元で、積極的に条件を選択させたり考えさせたりする場を設定する必要があると感じた。

今回は、バドミントン経験者が少なく、体力や体格差はあるものの技能差があまりない集団が対象であり、また、直接身体接触する機会がないネット型での実践であった。今後、技能の習熟度に開きがある集団や、直接的な身体接触を伴うゴール型やベースボール型での実践においては、安全面に配慮した用具の工夫をはじめ、手立てを工夫する必要があると感じた。